

# ファッシー通信

2019年 第6号

## — 主人公はあなたです —

子どもは子ども、あなたはあなた。  
みんなありのままの自分でいてほしい…。

いつの時代でも、制度が変わっても、地域や年齢や障がいに違いがあっても、みんな同じ。壁にぶつかり、悩み、時に苦しむこともあるでしょう。そんな中で、頑張っているあなたへ——  
自分を大切にしながら安心して笑顔で子どもと向き合ってください。  
そんな思いで活動しています。

## 平成29年度 家族支援事業部 実施報告

実施日	内容（開催地）	参加数			ファシリテーター	備考
		会員	会員外	合計		
7/22(土)	第51回関東甲信越ブロック大会（千葉県）	詳細は不明ですが非会員の方も多く参加していました。		50		新井部長がシンポジストとして登壇、山崎がファシリテーターとして参加しました。（第1分科会）
10/30(月)	障害認識ワークショップ（鴻巣市）	19	13	32	6	講師：吉川かおり氏 ※1名親の会へ入会あり

## 29年度を振り返って



29年度も家族支援事業部は新井由加里部長を中心に確実な事業展開をしました。ワークショップは1回の開催でしたが、吉川かおり先生をお招きして「障害認識」の研修会を開催しました。

知的障がい児者の福祉の歩みは本当に半歩ずつの進み方で、知的障がい児者の問題はまだまだ「家族だけの問題」です。なかなか我が子の障がいに向き合えないまま、人からも社会からも孤立している人がいます。その状態では親も子も不幸な人生になってしまいます。

心の中で暗く凍てついている塊を吐き出すことで、明るい光のある場所に戻ってきてほしいのです、凍てついた塊をとかしてほしいのです。

それができるのが、家族支援事業部のワークショップです。

家族支援事業部は、30年度はもう少しワークショップを多く開きたいと思います。8人から10人くらいでワークショップは開けます。ぜひ、声をかけてください、ファッシーさんが駆けつけます！

30年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。☆(=^..^=)

業務執行理事 高野 淑恵

## 目次

1P・・・平成29年度実施報告  
29年度を振り返って

4P・・・関ブロ千葉大会報告

2～3P・・・障害認識ワークショップ（クリアこうのす）

# 10/30 (月) 障害認識ワークショップ を開催しました!

会場: クレアこうのす  
大会議室B  
参加人数: 32名  
(内非会員13名)

講師:  
吉川かおり氏 (明星大学人文学部福祉実践学科 教授)

## 【ワークショップの流れ】

- ワークショップの目的とルール
- 導入のワーク「氏名、立場」「私のこの1週間」「好きな季節とその理由」
- 学習プログラム「親として「育つ」ということ」
- 「ありがとう・ごめんね」を見直すワーク
- 話し合い (自分なりの次の一歩はどこに)
- 感想、終わりのワーク

親、支援者・立場は違えど本人を  
思う気持ちは同じです。



ワークを通して“気づき”も沢山。

障害認識のワークショップと聞くと、何かとても難しい感じがしませんか？  
でも、吉川かおり委員長を中心に開発されたこのプロジェクトは、障害のことをもっと知ろう！  
我が子とより良い関係をつくるために開発されています。なので、我が子の可能性を伸ばすための  
関わり方や自己決定、共同決定が出来るようにしようという事を目指して開発されています。  
素晴らしいと思いませんか？

障害のある我が子に一番関わる親が障害観を見つめ直すことによって、結果として今よりもより  
良い親子関係作りに役立ったり、共にその人らしい人生を歩んでいきやすくなることにつながって  
いきます。

おさらいですが「障害認識プロジェクト」は、平成21年度障害者保健福祉推進事業として、  
厚生労働省(当時)から助成金を得て実施されました。正式名称は「障害とは何か～知的障害者  
親の会による障害認識・啓発プログラム開発～」です。

そんなプログラムの中から今回は、導入のワークで、「私のこの一週間」、「好きな季節とその  
理由」学習プログラムその2「親として親として「育つ」ということ あなたの立ち位置、見直  
してみませんか？」という親の成長について学習しました。

点検ワークでは、「ありがとう」「ごめんね」を見直すワークを通してこの二つの言葉を、どれ  
くらい口に出しているかのチェックシートで点検しグループで話し合いました。

グループのメンバーと話し合いを通じて、自分に問いかけたり、見つめなおしたり、我が子との  
関係を振り返る作業は、親の年齢や生活環境の違いに関係なく定期的に見直すことがとても大事  
な作業だと確認することができました。

佐藤 早苗

## ～ワークショップに参加して～

支援者3名、会員2名より感想をいただきました

子どもは、親の前の顔だけではなく、友達や先輩後輩としての顔、お客さんの顔、職業人とし  
ての顔など、色々な顔を持つことで大人になっていくという話が一番印象に残りました。色々な  
顔を持てるように手伝うことが、支援者としての役割なのではないかと思いました。



また、学齢期の子どもは、トライ&エラーを繰り返すことによって、「できる・できない」や  
「合う・合わない」を自分で見つける、という話も印象深かったです。支援者としては、子ども  
が危険でない限りにおいて、その子自身のトライ&エラーを見守ることが大切なのではないかと  
感じました。

以上の二点を今まで以上に心にとめて、支援にあたりたいと思います。

支援者 和田 千里

講習会に参加したのは、作業所の生活介護に勤め始めて3ヶ月たった頃で、作業所の利用者さんと過ごすいろんなことが初めてのことであったので何かしら得るものが有ればと思っての参加でした。

ワークショップで放課後デイのスタッフの方と同じグループになり、講習会後日には訪問させて頂き、日頃の疑問や利用者さんの様子等お話しする機会も出来て、とてもいい時間が過ごせました。ありがとうございました。

  支援者 鈴木 玉緒

講師の吉川先生のお話、とても勉強になりました。

支援する立場のうちのスタッフにも、もちろん私にも、有意義な時間となりました。

子どもを持つ母親としても、障害のある兄を持った妹としても、一つ一つ考えさせられました。子どもは親とは別の考えを持った人間…親として育たないと…。「ありがとう・ごめんね」を見直すワークの中で、皆さんに『障害のある子に産んでしまっでごめんね』と言わないでください』『障害のあるお兄ちゃんがいてごめんね。妹のあなたに苦勞かけるね』ときょうだいに言わないでください』とお願いしました…。私は今でも「私のお兄ちゃんであらう。お兄ちゃんを産んでくれてありがとう」と思っています。そして、支援者の立場としても、お母さんたちに笑顔で楽しく生きてほしいと心から願っています。お母さんが幸せじゃないと子どもは辛いです。

ワークショップで同じグループだったB型作業所の妻沼の方が、この間当事業所を訪ねてくれました。私たち支援者も手をつないで、一緒に歩いていきます。



放課後等デイサービスじゃんぷ 有坂 美幸

初めてワークショップに参加させていただきましたが、目から鱗のお話ばかりでした。

色んな方のお話を聞いて、楽しい時間でした。

障害を持った子供を育てていると、一生懸命になりすぎて、親自身、自分というものを見失い、子供＝自分となりやすい気がします。今回感じたのは、そうではなくて、障がい児の親だけど、親として「育つ」ということ、自分の立ち位置はどこか、どうしていけば、親も子もその人らしい暮らし・人生を歩んでいくべきかと考えさせられました。

親だって、子供だって、一個人、どんな障害であっても、自己肯定感を高く持っていきたいものです。そのためには、具体的な態度として示していき、お互いを認め合った関係を作っていけたらと思います。

鴻巣市手をつなぐ親の会 山口 佳住

41歳の息子はグループホームで生活しています。親が親として育つには4つのステップ、乳幼児期、学齢期、大人になりつつある時期、子どもが自分なりに自立をする時期、と段階を踏んで息子なりに成長してきたかな、と思う反面、いやまだまだ親離れ、子離れ出来ずにいる親子関係を感じています。

「ありがとう・ごめんね」を見直すワークでは、皆さんの話を聞き、伝え方に障害者を持つ親でなければキャッチ出来ない話に微笑ましく思いました。日常生活のなにげない会話って普段意識していませんが、大事なことなんですね。

色々な年齢の子どもを持った方達と話が出来たことは良かったです。

障害に対する考え方、子どもへの関わり方を考える良い機会を得ることが出来ました。

   
北本市手をつなぐ親の会 鈴木 孝子



# 関フロ千葉大会報告

日時：平成29年7月22日（土）

会場：松戸森のホール21

第1分科会のシンポジストとして、新井部長が登壇しました！

## 「心に栄養を！」～共感から始まる仲間づくり～

19歳～70歳代の保護者(父親も数名いらっしゃいました)・支援者・学生と年齢も立場も様々な50名が8グループに分かれ、前半は家族支援ワークショップを体験し、後半はシンポジウムで「家族支援ワークショップやっています！～家族支援活動のメリットと可能性～」と題し、コーディネーターはお馴染みの吉川かおり先生で、千葉県のみんま隊さんと私たちファッシー隊の活動紹介に始まり家族支援プロジェクトの誕生、ワークショップの良いところ等を伝え、その後は「自分はどんな風になりましたか？」「障害って何だと思いますか？」「社会にある障壁について」を一方的な話ではなくグループディスカッションしながらみなさんと一緒に考えていきました。

グループワークという今までに無い形体の分科会に加え初めて家族支援ワークショップを体験する方も多かったことで終了後も会場は興奮覚めやらずといった感じでした。

とても貴重な体験でした。

やっぱり家族支援ワークショップっていいな！

部長 新井 由加里

### ＜当日のワークショップの流れ＞

- ①ワークの進め方、守るべきルールの説明
- ②学習プログラム「心に栄養を注ぎましょう」
- ③話し合いワーク ・自己紹介ワーク「お生まれは？」他  
・スライドの感想
- ④感想の発表（約20分）



◀ コーディネーターはおなじみ吉川かおり先生



◀ 会場は親や支援者、多くの方で終始和やかな雰囲気でした

▲ シンポジストの新井部長(左)とまんま隊の澁川さん(右)

## ★ 30年度今後の予定 ★

- ・家族支援ワークショップの開催（開催地未定）
  - ・ファシリテーターのつどい
- ★養成講座を受けた経験のある方はぜひご参加ください

詳細決まり次第お知らせいたします♪

### 家族支援事業部メンバー 通称『ファッシー隊』

高野 淑恵（越谷）・新井由加里（鴻巣）・佐藤 早苗（熊谷）・長島 幸枝（北本）・山崎久美江（鴻巣）

【連絡先】 公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 2-15-3 母子福祉会館内

Tel:048-833-0444 fax:048-833-0400 Mail:saitama@ikuseikai.jp

